

タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）

日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

井森 彬太（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）

私が中東イスラーム教育セミナーに出席したのは、去年に引き続いてこれで 2 回目のことです。私は普段、イスラエル・パレスチナおよび宗教社会学に関わるテーマを研究しています。そのため、普段はこのどちらかに関わる分野の方の発表を聞くことが多いです。

しかし、このセミナーでは、前近代から近代まで、東南アジアから北アフリカまでの多様な地域を研究される方々のお話を聞くことができます。また、ディシプリンも地理学・歴史学・経済学などと多岐にわたっています。そのことを魅力に感じ、再び参加いたしました。

今回印象に残った発表は、京都大学の何さんの「中国回族のアイデンティティ意識とウンマ観念」でした。去年はこのセミナーでは（おそらく）回族の研究発表をされた方はおらず、私にとって回族に関する研究発表を聞くことは初めてのことでした。特に「ウンマ」観念が興味深かったです。アラビア語では「ウンマ」概念はイスラーム共同体を指す場合と民族を指す場合の両方がありますが、それと同様に「回族」と「中華民族」両方を指す場合が中国の場合でもあったということは興味深かったです。また、著名な中国のイスラーム教徒知識人が、他の地域の知識人たちと同様にアズハル学院に留学していたことがあったというのも、私としては意外なことでした。中国の回族の独自性と共通点の両方について知ることができたように思います。

また、このセミナーでは、インフォーマルな交流からも得るところが多かったです。当初このセミナーがオンラインで開催することに決まった時、私は不安に思っていました。例えば「オンラインに代わってしまったら、教育セミナーは果たして成立するのだろうか？はじめて会う受講生や先生方と会話できるのだろうか？」ということです。

ですが、それは杞憂に終わりました。1 日目の懇親会は、大学の特別食堂から、インターネット上で行われました。この際、ツールとして Gather というものが利用されました。これは参加者のほとんどにとって初めてのツールでした。しかし、操作性の分かりやすさゆえにしばらくすると多くの人が使いこなし、初対面の人どうしで会話できるようになりました。僕自身も、またこのような大人数が集まる懇談の機会があれば Gather を使いたいと思います。

今回一つ心残りであったことは、今回は私自身は発表することができなかったことです。現在は 2 年生で、修士論文の執筆が近いこともあり、本来は何らかの仕方で発表を行い、意見をいただく機会を得たほうがよかったと思っています。今後参加される方は、「発表するか」「しない」かのどちらかで迷った場合、「発表する」を選択された方がよいと思います。

最後になりましたが、受講生及び先生方、および千葉さんをはじめとする AA 研のスタッフの方々には、4 日間大変お世話になりました。ありがとうございました。